

## 釜石地方

## 森林組合だより

—緑豊かで活力ある釜石地方林業の確立をめざして—

## 第2号

平成28年10月1日

良質生産は間伐から  
みんなの森林組合

〒026-0302 岩手県釜石市片岸町1-1-1

TEL (0193) 28-4244 FAX (0193) 28-2901 www.kamamorikumi.jp



## 地域環境保全の担い手として



釜石地方森林組合

代表理事組合長 佐々木 光 一

この度、台風十号で犠牲に  
られた方々に対し心からお悔や  
みを申し上げますとともに、被  
害にあわれた皆様にお見舞いを  
申し上げます。また、当組合の  
台風被害に対し、ご心配をおか  
けしましたこと心からお詫び申  
上げます。

観測史上初めて東北に上陸し  
た台風十号は巨大な勢力を保つ  
たまま管内の河川を氾濫させ森  
林の崩壊、主要幹線道路を崩落  
させるなど大きな傷跡を残しま  
した。震災から五年がたち、こ  
れからという矢先の災害は地域  
の方々に大変な落胆を招きまし  
た。早期復旧をめざし当組合も  
体制を整え協力してまいりま  
す。

昨今の「異常気象」と呼ばれ  
る現象はすでに平常化を見せ、  
数年前から取りだたされる地球  
温暖化によるものと想像されま  
す。地域の森林保全の担い手と  
して、取組んでまいりました当  
組合は、間伐遅れ林分の解消と  
伐採後の放置森林の早期緑化を

めざして管内の森林の調査と危  
険個所の情報収集に努めており  
ます。組合員各位に對しまして  
は森林の適正管理の提案をして  
環境保全を最優先に進めてまい  
ります。

また、現在進めております地  
元産スギを利用した木製品の開  
発、森林体験を通じ、組合員各  
位はもちろんのこと釜石市、大  
槌町以外の方々へ森林の公益的  
機能への関心を高めながら木材  
需要拡大に務め地元産材のブラ  
ンド化を進めてまいります。

平成二十八年度の総代会にお  
いて新たな新人役員五名含む新  
執行役員が選任され、釜石地方  
森林組合の伝統を守りつつ、新  
しいアイデアと行動力を発揮し  
地域の活性化とともに森林、林  
業の発展を目指してまいります  
です。

組合員各位並びに関係者各位  
には益々のご協力ご支援をお願  
いして挨拶に代えさせて頂きま  
す。

## 次世代に豊かな森林を



釜石市長 野田 武則

二〇一六年八月三十日に発生した、台風十号により橋野地区を中心に被害を受け被災された組合員の皆様は心よりお見舞い申し上げます。釜石市では、被災された皆様にできる限りのご支援を行ってまいります。

さて、森林は水源かん養、山地災害防止など市民の暮らしに欠くことができない大切な役割として、昨年十二月国連気候変動枠組条約第二十一回締約会議COP二十一においても地球温暖化防止のため国際枠組みとして、森林の持つ公益的機能のため一層の森林整備が不可欠と注目されております。

一方、市内の山林は、戦後造林した人工林の多くが本格的な利用期を迎える中で、豊富な森林資源を循環利用し、新たな森

材需要の創出や市産材の安定的・効率的な供給体制の構築等により成長産業化を実現することが重要となっております。市の森林・林業・木材産業は多くの可能性を秘めた、成長分野であると感じております。このような、少しずつ出始めた希望の芽をこの地で大きく育てると共に、次世代に受け継ぐ豊かな森林を残していくため、組合員の皆様を初め、当市の森林、林業や木材産業に携わる皆様と共に、工夫を凝らしながら、意欲を持って取り組むことが、林業振興と震災からの復旧、復興につながることを考えておりますので、組合員の皆様には今後とも一層のご理解・ご協力をお願いいたします。

## 資源活用に向けた一層の連携を



大槌町長 平野 公三

岩手県内では、台風十号による甚大な被害が発生し、釜石大槌管内におきましても、住民の皆様への生活はもとより、貴組合におかれましては、事務所の物的被害が発生するに至りましたことに対し、心からお見舞い申し上げます。

また、森林施業におきましても、林道や作業道等の被害が確認され、さらなる被害拡大が危惧されるところですが、貴組合の皆様にはくれぐれも安全にご留意のうえ施業いただきたいと存じます。

さて、去る東日本大震災から五年六ヶ月が経過し、復興事業の進捗に伴い、住家や公共施設等へ今後ますますの木材需要が見込まれるなか、現場施業から

木材の流通に至るまでご活躍され、貴組合の皆様が当町の復興の一翼を担っていただいておりますことにつきましては、誠に感謝申し上げます。誠にありがとうございます。当町におきましても、豊富な木材資源を有効に活用し、林業の振興を目指すことが命題となっており、貴組合の知見や技術に支えられながら、より一層の連携を図り、林政に取り組みで参る所存でございます。

復興の象徴とも言える新事務所開設から一年三ヶ月あまりを経て、貴組合の今後益々のご活躍をご期待申し上げますとともに、林業振興に向けた施策へ当町とともに歩んでいただきますようお願い申し上げます。

岩手県沿岸広域振興局  
農林部

部長 小菅裕明  
特命課長 菊池伸裕

《林業振興チーム》  
0193-25-2704

小岩俊行(上席林業普及指導員)、  
松田悟、菊池緑

## 釜石市農林課

課長 高橋一見

《林業振興係》

0193-22-2111

(市役所代表) 内線 302  
白浜淳(係長)、宮本祥子、  
平林大騎

## 大槌町農林水産課

課長 田中恭悦

《農林班》

0193-42-8717

阿部泰久(班長)、越田宜弘



# 新任理事紹介

役員集合

①昭和二十六年  
②農林業  
③震災後の復旧に地域産木材を利用した災害公営住宅、大榎学園等の公共施設が建設されています。今後も地元産木材が利用されるよう健康な森づくりができるよう新人理事として頑張っていきたい。



白澤 勲

平成28年2月25日を以って就任された  
新人の理事の皆さんをご紹介します。

- ①お生まれ年 ②御肩書／御職業
- ③組合員の皆様へひとこと

(※五十音順、敬称略)

①昭和二十二年  
②農業  
③橋野町に生まれ育ち、身近に森林を感じながら生活してきました。この経験を生かし、新人理事として森林の大切さを伝えていきたい。



藤原 元助

①昭和二十三年  
②箱崎簡易郵便局事務取扱者  
③漁業、林業、郵便局業務を通じて地域とかわってきました。地域の皆様に愛され利用される森林組合になるよう努力していきたいと思います。



植田 收

①昭和二十五年  
②農林業  
③森林のもつ恵みを活用して原木、菌床しいたけの栽培に力を注いできました。地域の再生は森林・林業の復活にかかっています。地元組合員に頼られる組織になれるよう、新人理事として努力したい。



和田 功

①昭和十一年  
③地域の山林、自身の山林への関心からこの度、理事に就任しました。地域に密着し、どんな時でも信頼される組織となるよう取り組んでいきたいと思っています。



水上 濟

# 平成二十八年度 総会報告



平成二十八年二月二十四日、総代本人出席百二十三名、委任出席十名、書面議決権五十一名で出席総代数百八十四名の協力のものと第五十三回釜石地方森林組合通常総代会が開催されました。

災から復旧した力強い組織力と地域森林管理の担い手としての高い期待とともに祝辞を頂戴した。議長には鶴住居地区の鈴木堅一氏が選出され議事に入った。事務局から平成二十七年度の事業報告とともに過去最高の経常利益一七六、六九六千円を計上したことを報告するとともに第一号議案から第九号議案が上程され慎重審議の結果提出議案すべて承認可決されました。

冒頭挨拶の中で、代表理事組合長佐々木光一からは東日本大震災津波被害から五度目の総代会開催にあたり改めて犠牲になられた方々への哀悼の意を表するとともに「新総代員と今総代会において新役員が決定され今後の三年を担う執行体制が確立される。新体制のもと地域に必要とされる組織となれるよう取り組んでまいる所存です。」という強い決意が話された。

感謝申し上げますとともに一層組合員サービスの向上を図りながら、森林の資産価値の向上に努めてまいりたいと決意したところであります。今後ご協力のほどお願いいたします。

また、釜石市長、大槌町長、沿岸広域振興局長、東北森林管理局三陸中部森林管理署長、森林総合研究所森林農地センター盛岡水源林整備事務所長から震

成績及び剰余金処分案の承認について  
釜石地方森林組合定款の一部改正について

第一号 平成二十七年事業

平成二十八年度事業計画設定について

第二号

平成二十八年度内における借入金の高限度額決定について

第三号

平成二十八年度事業度額決定について

第四号

平成二十八年度内における一組合員に対する貸付金の最高限度額決定について

第五号

平成二十八年度理事及び監事報酬の年度額決定について

第六号

平成二十八年度理事余剰金の預入先決定について

第七号

平成二十八年度森林整備補助金事務取扱手数料の料率決定について

第八号

役員選任について

第九号

役員選任について

## 釜石地方森林組合の概要

### I 組合員の状況及び出資口数

平成27年12月31日現在

	組合員数	出資口数	出資金額
正組合員	1,626 <sup>人</sup>	98,543 <sup>口</sup>	98,543 <sup>千円</sup>
準組合員	21	480	480
計	1,647	99,023	99,023

### II 役職員の状況

平成27年12月31日現在

	常勤	非常勤	参事	一般職	現場職	計
理事	1	14				15
監事	0	3				3
職員			1	8(1)	12	21

### III 施設及び高性能機械の保有

平成27年12月31日現在

名所	構造	面積 (㎡) 台数	備考
新事務所	木造軸組	275.50㎡	片岸町
機械保管庫	木造軸組	97.00㎡	片岸町
貯木場	アスファルト舗装	8,600.00㎡	片岸町
プロセッサ外		3台	片岸町
フォワーダ		2台	片岸町

## IV 有形固定資産の明細

平成27年12月31日現在 単位：千円

種類	取得価格	償却累計額	償却後の残高
建物	83,863	14,240	69,622
構築物	115,018	22,575	92,443
機械装置	85,727	81,454	4,273
車両運搬具	24,117	16,389	7,728
工器具備品	2,334	2,253	80
計	311,060	136,913	174,147
土地	56,967		
所有林	26,144		
分収林	25,112		
計	108,223		
合計	419,283		

## V 貸借対照表

平成27年12月31日 単位：千円

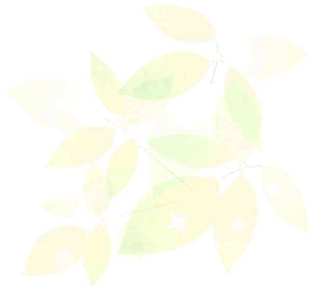
科目	金額	科目	金額
資産の部		負債の部	
流動資産	375,806	流動負債	144,574
有形固定資産	282,370	固定負債	69,801
外部出資その他の資産	23,315	計	214,376
計	681,491	純資産の部	
		出資金	99,023
		法定準備金	198,046
		当期剰余金	123,436
		前期繰越剰余金	46,610
		計	467,115
資産合計	681,491	負債、純資産計	681,491

## VI 損益計算書の明細

平成27年1月1日～平成27年12月31日 単位：千円

区分	金額	取扱数量
指導事業	収益	577
	費用	1,822
	損益	-1,245
販売事業	収益	148,189
	費用	86,766
	損益	61,423
森林整備事業	収益	581,675
	費用	292,023
	損益	289,651
事業総利益	349,829	
事業管理費	178,106	
事業利益	171,723	
事業外損益	4,973	
経常利益	176,696	
特別損益	-6,060	
税引前当期利益	170,636	
法人税・住民税事業税	47,200	
当期剰余金	123,436	
前期繰越剰余金	46,610	
当期末処分剰余金	170,046	

# 事業課より



写真上左：今野／甲子地区担当  
 写真上中：久慈／釜石・平田地区担当  
 写真上右：高橋／総括担当  
 写真下左：小笠原／唐丹地区担当  
 写真下中：加賀／大槌地区担当  
 写真下右：佐々木／栗橋地区担当  
 (佐々木典・藤原／鶴住居地区担当)

## 〈販売部門〉

管内の木材状況は、東日本大震災から五年が経過し、インフラ整備が進むにつれ復興再建住宅等により着工数は伸びつつあるものの、建築・構造物材の需要はあまり増えていないのが現状です。また、当組合管内の釜石市・大槌町に限らず、国内全体として人工林の本格的な利用期を迎え、木材生産量が増加しつつあるものの、多くの課題を抱えており、今後も引き続き厳しい状況が予想されます。

その中で当組合では、地域材の有効利用を掲げ、釜石市・大槌町内及び近隣の製材所と連携し『木材流通協議会』を立ち上げ、低コストで良質な原木を直接供給する体制を構築している段階です。山元（伐採現場）と加工が連携し、規格別の木材用途と供給体制を合理的・効率的に結び付けることが狙いです。

また、補助金の有効活用を図りながら、組合員への所得還元を第一に、搬出間伐の提案を行えるよう、役職員が一丸となつて長期的・継続的な事業展開を

図つてまいります。

一方、木材の市況は受け入れ量の制限や値が下がる状況にありましたが、九月にはいり、弱気配は脱したもののと思われまます。国産材需要は回復傾向に向かうも、依然、木材価格は外材価格の為替（円高）による影響も懸念され、厳しい状況が予想されます。その為、前述のように安定した販売先を確保する為、木材流通協議会を通じ、地域材の利用促進を図つてまいります。

## 〈森林整備部門〉

### 補助事業のご案内

森林は、水をはぐくみ、山地を災害などから国土を守るとともに、豊かな自然環境を通じて、当地域に潤いと安らぎを与えております。

また、地球温暖化防止の観点からも、温室効果ガスの一つである二酸化炭素の吸収源としての役割が重要となっております。

す。

このため、森林を育成し健全な状態に保つ以下の作業に対して、国と都道府県による補助制度が設けられております。

- ◆ 森林環境保全直接支援事業  
 (地拵・植付、下刈、除伐、保育間伐、鳥獣害防止施設等整備等)
- ◆ 森林環境保全直接支援事業  
 (気象害等による被害森林の復旧造林及び鳥獣被害対策等)  
 (地拵・植付、下刈、除伐、保育間伐、鳥獣害防止施設等整備等)
- ◆ 合板・製材生産性強化対策事業  
 (間伐、森林作業道)
- ◆ いわて環境の森整備事業  
 (混交林誘導伐)

上記の補助制度を使用する場合は持続的な森林経営を確立するための**森林経営計画**を作成する必要があります。詳しく知りたい方、わからないこと等がある方は担当(小笠原・加賀)までご連絡下さい。

## 第二期林業 スクール開校中

当組合が地域の林業を担う人材を育成するために開校させた「釜石大槌パークレイズ林業スクール」は平成二十八年四月から第二期を実施しています。

林業スクールは、世界有数の金融機関「パークレイズグループ」からの支援を受けて三年間取り組んでいるものです。第一期は

▽十二名を対象に毎月一回の講義（座学と実習）を行う「実践編 通年コース」

▽広く市民の方々に森林や林業について知っていただく「オープンセミナー」

——を開催しました。

第二期は、首都圏や盛岡などに在住の釜石出身者や釜石での林業就業に関心のある方が受講しやすいよう、「実践編 通年コース」に加えて、「実践編 短期集中コース」を実施しています。「短期集中Aコース」は八月中旬に四泊五日で行いました。母親が岩手県出身で東日本大震災後に釜石での林業をしたと考えるようになったという二十代男性や、内陸に進学した

大学生など七名が参加しました。



▽間伐現場の見学

▽間伐のための調査実習

▽世界の林業／五日間の振り返り

——といった内容を学びました。講師は、作業現場での経験も長く、岐阜県立森林文化アカデミーでの指導実績もある内田健一さんをメインに、ワークショップは都留文科大教授の高田研さんをお招きしました。同様の講座を十月にも行います。また年内には、オープンセミナーも開催予定です。

最終年度となる二十九年度も、より充実した内容で開催致しますので、受講についてお気軽にお問い合わせください。  
(担当＝手塚)

## 企業と連携した 森林再生

東日本大震災で被災された組合員さんの山林経営を支援するため、当組合では首都圏などの企業と連携した取り組みを進めています。

その第一例目として、箱崎町の植田収さんにご協力いただき、植田さん所有の山林の一部（約一ヘクタール）を横浜市の

「千代田化工グループ」の社員の皆さんといっしょに再生させています。

この山林は震災前に全伐しましたが、植田さんのご自宅は津波で被災し修繕にも費用がかかったことから、再造林をするかをためらっていたとのことでした。

一方、千代田化工グループは震災直後から釜石市内でがれき撤去などのボランティア活動を行っており、当組合でも平成二十五年から山火事現場の地植え（植樹の準備）作業のお手伝いなどをしてもらってききました。同社から「釜石で継続的に復興にかかわる活動がしたい」との提案を頂いたことから、釜石に定期的に通ってもらう、地植え、植樹、下刈り…といった一連の作業を、当組合若手職員と一緒に進めてもらうことになりました。

平成二十七年秋には八名の社員で地植えをし、翌二十八年五月には社員二十名以上が訪れ、植樹祭を行い「千代田の森」の看板を設置した後、社員八名が一日半をかけて四百六十本のスギと広葉樹を植えました。植田さんからの要望で車止めの柵も設置しました。

今年三月には、一般参加者むけに復興を祈念する植樹イベントも開催し、市内や東京、盛岡などから三十五名が参加し、植樹に汗を流しました。

「復興にかかわっていきたい」という企業や個人の力を借り、釜石大槌地域への交流人口を増やしながら、組合員の皆さんに貢献していきたいと思えます。



# 釜石地方森林組合からのお知らせ

## ◆ナラ枯れにご注意ください！

当管内は、沿岸部でのナラ枯れ被害地の最北端となっています。釜石市唐丹町大石地区で平成二十六年にナラ枯れ被害木が確認され、昨年に引き続き今年度も伐倒くん蒸処理作業を実施しております。

ナラ枯れ被害による枯死の原因は、カシノナガキタイムシ（体長5mm）が運ぶナラ菌により、通水障害が引き起こされるもので、水を吸えなくなった樹木はやがて枯死します。被害形態として八月〜十月頃にかけて、ミズナラ、コナラ、クリなど大径木の広葉樹が急に赤くなって枯れ（写真右）、根元には大量の木くずが蓄積され（同左）、幹には2mm程度の穴が多数あります。



す。

ナラ枯れが疑われる樹木を一本でも発見した際は、当組合までご連絡ください。ご協力お願いします。

## ◆大槌学園木造校舎完成

「大槌町立大槌学園」の校舎が平成二十八年九月に完成し授業が開始されました。

小中一貫の同校は木造二階建、一部鉄筋コンクリート造で、大槌町産を中心に木材をふんだんに使っているのが特徴です。当組合などが伐採した町産のスギを集成材に加工し柱などとして使っているほか、教室や廊下の化粧材やロッカーなど、子どもたちが触れる部分にたくさんのお木材が使用され、あたたかみのある学び舎になっています。

被災地支援制度を活用し、同金庫や県森林組合連合会とともに、同校の子



どもたちや保護者に利用してもらおうテーブルセット二機を寄贈しました。お子さん、お孫さんの授業参観などで足を運ぶ際には、ひょうたん島を模したテーブルを探してください。

## ◆スギ間伐材活用製品を販売

昨年から発売している「一合枿」に続き、今年四月からは「釜石杉 虎舞ラガーキーホルダー」の販売を開始しました。当組合事務所カウンターのほか▽シープラザ釜石▽道の駅釜石仙人峠▽橋野産直「どんぐり広場」▽宝来館——で販売しています。おなじみの「虎頭」、そして二〇一九年に釜石で予定されているラグビワールドカップにちなんだ「ラグビーボール」をもとにしたデザインで、二種類（各大小）あります。

当組合の間伐材を使い、釜石市でひきこもりの方の支援を行うNPO法人「かだっぺし」が加工や包装を担当しています。デザインは紫波町



の「マルツ工房」です。売上の一部は、被災した組合員さんの苗木購入費として積み立てています。

遠方に住む釜石大槌出身者へのプレゼントなどにぜひご利用ください。（大：七百五十円、小：六百五十円）。

## ◆「森林経営計画」へのご参加をおねがいします

当組合と森林経営管理委託を締結することにより、計画的な施策が樹立され、優先的に補助金を導入することができます。植林・保育・間伐・作業路開設の自己負担をなくし、健全な森づくりを行います。

また、組合では、木製品販売の売上の一部を森林整備費として積み立てたり、カーボンオフセット（二酸化炭素排出量の取引）の制度を活用し、組合員のみならずの森づくりに役立てています。

## ◆「森の貯金箱」被災者向け再建住宅プロジェクト進行中

被災された方々に地元材を活用した低コストの住宅を提供する「森の貯金箱」プロジェクトは平成二十四年からスタートし、これまでに釜石市・大槌町などで六棟が完成しました。現在も、高台移転先に住宅を建設予定の方などからご相談を頂いています。当組合事務所は、「森の貯金箱」

の工法をもとに設計しており、室内の雰囲気などは感じただけです。住宅再建をご検討の方はお気軽に見学いらしてください。



## 編集後記

東日本大震災後、二号目となる「組合だより」です。平成二十七年年度（二十七年四月〜翌年三月）は、企業や大学、森林組合系統などの視察や森林体験などで、計四百人以上の外部の方々が当組合事務所や間伐現場にいらつしやいました。外部に釜石や大槌の魅力や森林の機能、林業について伝えていくとともに、これからは地域の組合員の皆さまに当組合の取り組みについて知っていただく機会や地域の子どもたちに森林に触れもらう機会を増やしていきたいと思っています。今号も編集は、釜石市の復興支援員「釜援隊」を通じて当組合で活動している手塚さや香が担当しました。